

## 第13回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成29年8月18日（金） 10:00 - 12:00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、薬師寺座長代理、市川委員、小野田委員、藤井委員、  
山崎委員

(2) 政府側（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、佐伯審議官、行松参事官

(3) 説明者

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課 谷課長

宇宙開発利用課宇宙利用推進室 庄崎室長

JAXA 宇宙科学研究所 常田所長

4. 議事要旨

(1) 我が国の宇宙科学・探査の在り方について

資料1に基づき、事務局から前回の議論のポイントについて説明を行い、文部科学省から、それを踏まえた対応方針について説明を行った。説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。（以下、質問・意見等、：回答）

国際宇宙探査の機会を用いて高い科学成果が得られるのであれば、科学探査もその機会を活用していくことを考えていくべき。一方で、国際宇宙探査と科学探査との間で、ある程度の線引きは必要ではないか。

(2) 宇宙科学・探査に関する工程表の進捗状況について

資料2に基づき、JAXAから宇宙科学・探査に関する工程表の進捗状況について説明を行った。説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。（以下、質問・意見等、：回答）

テニユアトラック制度の導入は大変良いことであるが、対象人数が限られているのはどう考えるか。

人件費の制約がある中で、プロジェクト予算と関連させることで、従来よりも余裕をもったやり方ができないかなど詳細な制度設計を検討する。

SLIMについて、相乗りすることでミッション機器が増えるのは良いことだが、「ピンポイント着陸」という本来のミッションを達成できるようにしていただきたい。

S L I Mに関する予算は相乗りによってどうなるのか。  
打上げ経費は減少するが、衛星の冗長系の見直しなど増額するものもある。  
今後、詳細な額を精査する予定だが、当初予定していた総額を超過しない  
ようにしたい。

今回の相乗りは特別な措置で、公募型小型計画においてイプシロンを活用  
していくという方針に変更はないのか。  
方針に変更はなく、今後も、公募型小型計画とともに、革新小型衛星にお  
いてもイプシロンを活用していく。

テニユアトラック制度はI S A Sから提案されている構想だが、文部科学  
省として、政策として実現していただきたい。

以 上